

# 令和2年度 第1回浜松市環境審議会 会議録

- 1 開催日時 令和2年7月20日(月) 午後2時00分から午後3時30分
- 2 開催場所 浜松市鴨江分庁舎2階 会議室  
※本会議はWeb会議方式にて開催した。Web会議出席者は「3出席状況」のとおり。

## 3 出席状況

### 審議会委員

-	荒巻 太枝子	静岡県シェアリングネイチャー協会	
○	小名木 秀夫	浜松市自治会連合会	
Web	田中 浩之	横浜創英大学 こども教育学部	会長
Web	中村 美詠子	浜松医科大学 医学部	
Web	野中 正子	浜松市消費者団体連絡会	
Web	藤井 康幸	静岡文化芸術大学 文化政策学部	
○	藤本 忠藏	浜松医科大学 医学部	副会長
Web	松浦 敏明	静岡県産業廃棄物協会	
-	水谷 洋一	静岡大学 地域創造教育センター	
Web	渡邊 記余子	浜松商工会議所	

### 事務局

環境部	影山部長、伊藤参与、藤田環境部次長(環境政策課長)、久米参事(環境保全課長)、苗村参事(廃棄物処理課長)、嶋野副参事(環境政策課課長補佐)
環境政策課	北島主幹、鈴木秀主幹、辻副主幹、今井主任、内山主任
ごみ減量推進課	石岡課長、飯田専門監(課長補佐)、鈴木亨副主幹

- 4 傍聴者 1名(報道4名を除く)
- 5 議事内容
- ① 諮問事項
- ・家庭ごみ有料化に関する諮問について
- ② 報告事項
- ・第2次浜松市環境基本計画(改定版)の施策について
  - ・浜松市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)について
- 6 会議録作成者 環境政策課企画調整グループ 今井主任
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
- 8 会議記録 有(公開)

## 1. 開会

## 2. 挨拶

影山部長

《部長挨拶》

事務局（藤田次長）

本年度第1回目の審議会であるため、今年度から環境部に配属になった参事以上の職員の紹介を行う。

各職員

《各職員自己紹介》

事務局（藤田次長）

《配布資料確認》

配布資料の『審議会委員名簿』について、田中会長は会場での参加となっているが、Webでの出席に変更になったため訂正をお願いします。

続いて、本日の会議の成立について、審議会委員10名のうち藤本副会長、小名木委員の2名が会場での出席、6名がWebでの出席をいただいている。過半数に達しているため、浜松市環境審議会規定第4条第2号により、審議会が成立することを報告する。

それでは、ここからの審議は、浜松市環境審議会規定第4条第1項により田中会長にお願いします。

田中会長

《会長挨拶》

議事に入る前に、本審議会の公開について委員にお諮りする。

本審議会では、個人情報等の非公開情報を審議する予定がないため、議事を公開する。意義のない方は挙手をお願いします。

全委員

（異議なし）

田中会長

了承を頂いたため、本審議会は公開とする。

事務局は、傍聴者があれば入室をお願いします。

（傍聴者入室）

田中会長

本日の会議録については、事務局で作成し浜松市附属機関の会議録の作成及び公開に関する要綱に基づき、発言した委員の記載の上公開する。

## 3. 議事

### ① 諮問事項

#### 家庭ごみ有料化に関する諮問について

田中会長

それでは、初めに諮問事項①家庭ごみ有料化に関する諮問について、説明をお願いします。

ごみ減量推進課

《資料1に基づき説明》

（影山部長から藤本副会長へ諮問書を手渡し）

田中会長

ただいま、市長から家庭ごみ有料化に関して諮問いただいた。本審議会は、市の環境の保全及び創造に関する基本的事項について調査・審議する場であるため、本諮問を受けることとする。本年3月に本審議会を設置の承認を頂いたごみ減量推進部会で、現在一般廃棄物処理基本計画の改定に係る審議を行っている。本件はこの計画・施策と密接に関係するものであるため、ごみ減量推進部会において審議・とりまとめを行い、その後審議会でも審議したのち、市に答申していきたいと考えるが、よろしい方は挙手をお願いします。

いする。

全委員 (異議なし)

田中会長 異議がないようなので、本件についてはごみ減量推進部会で審議することとする。なお、部会の委員については、浜松市環境審議会規定第5条第2項の規定により、会長が指名させていただいている。資料1のP13にごみ減量推進部会の名簿があるため、ご覧いただきたい。

## ② 報告事項 第2次浜松市環境基本計画（改定版）の施策について

田中会長 それでは、議事②報告事項、第2次浜松市環境基本計画（改定版）の施策について、説明をお願いします。

環境政策課 ≪資料2-1、資料2-2に基づき説明≫

田中会長 ただいまの説明について、意見、質問等あればお願いします。  
市民、事業者への支援や環境教育についても施策に盛り込まれているようだが、資料にもある通りかなり多岐にわたるため、気になる点等あれば後日、メール等の方法で事務局とやり取りをする形をとってもよいか。

環境政策課 具体的な施策等に関する意見・質問については、特に期限を設けないので、気が付いた点があればその都度ご連絡頂ければと思う。

## ② 報告事項 浜松市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について

田中会長 続いて、議事②報告事項の二つ目、浜松市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について、説明をお願いします。

環境政策課 ≪資料3、参考資料1、参考資料2、参考資料3に基づき説明≫

田中会長 ただ今の説明について、ご意見・ご質問をお願いします。  
資料が多いので、まず資料3についてご意見を伺う。

松浦委員 資料3のP1、概要の表『市域の温室効果ガス排出量の推移』について、森林等による二酸化炭素吸収の目標値が実績値よりも小さいが、その理由を教えてください。  
また、基準年度に記載がない理由も合わせてお聞きする。  
次に、その下の進捗管理指標について、2再生可能エネルギーの導入促進について、3つ管理指標が示されているが、この項目は1省エネルギーの推進に係る項目ではないかと考える。再生可能エネルギーの導入促進の観点では、太陽光発電や風力発電、バイオマス発電の数値が載ってくるべきではないか。

環境政策課 まず、森林等による二酸化炭素吸収の目標値が実績値より減っている理由についてである。森林認証林の取得面積は増やす計画となっているが、木そのものの吸収量が最も多いのが樹齢20～30年とされており、老木の増加を加味するとこのような数値になる。  
次に、基準年度に森林による二酸化炭素吸収が算定されていないというご指摘について、国がパリ協定で表明している26%の計算根拠についても同様の考えを取っているため、それに合わせた表記にしている。

3点目、「進捗管理指標」の再生可能エネルギーの箇所について、資料に記載されて

いる指標がどちらかと言えば省エネルギーに関連するものではないかというご指摘についてだが、各家庭が設置した太陽光発電による電力を自家消費した場合、二酸化炭素は排出されない。再生可能エネルギーの導入は、省エネルギーと同じように、エネルギー使用量の削減効果を持つため、1、2として省エネ、再エネを記載している。

松浦委員

森林吸収について、樹齢が高くなると吸収量が小さくなるとのことだが、森林認証面積を増やす、持続可能な森林経営という目標の中で、植林等により若い木を増やせばそんなに数値を落とすことはないのではないかと考える。

再生可能エネルギーについては、関心の度合いから言えば太陽光発電等も積極的に導入されているので、市民向けにこういったものも管理指標に盛り込んだ方が分かり易いと思う。

2の『市民1人一日あたりのごみ排出量』について、排出量は確かに減っているが、中を見ていくと、資源化量は民間事業者が集める量が増え、市の回収分が減っている。これが影響して計算上ごみ排出量が減少している。決して家庭ごみが減少している状況にないの、特に二酸化炭素排出量に大きく影響するのは可燃ごみだと思う。そういったことも考えながら管理していかないと二酸化炭素の削減までなかなかつながらないのではないかと。

中村委員

P3に記載されている事業の中に、教育関連の講座等が含まれているが、コロナウイルスの流行でそういった事業が進めにくい状況だと思う。これからも続いていくことが考えられるが、今後、「集まって学ぶ」以外の手段にシフトしていくのか、何か考えはあるか。

環境政策課

委員の御指摘のとおり、今年度環境教育に関してはできていない部分がある。基本的には従来通りだが、例えばWeb方式の導入等については今後の検討課題ととらえている。

田中会長

P3の基本施策1について、温暖化対策に関する講座受講者数が減少しているのが気になったが、何か理由はあるか。

環境政策課

温暖化対策に合わせてCOOLCHOICEについても普及啓発を行っているところだが、昨年度は実績として若干減った。温暖化対策は重要な部分であるため、今後推進したいと考えている。

野中委員

進捗状況についてということなので今後の話は難しいかもしれないが、さきほどの2017年度の市民一人あたりのごみ排出量について、2018年度はおそらく増加している。コロナウイルス流行以前の時点でも、市民が家庭から出すごみの量は減っていないと考える。コロナウイルス流行の中では、例えば従来励行されてきた公共交通機関の利用や相乗りは避けるように言われているし、これだけ減らしたいと言っている使い捨てプラスチック製品の使用が増え、プラスチックごみが大量に増えているということも考えられる。さきほど松浦委員から意見があったように、地球温暖化防止の観点で、ごみを減らす、特に可燃ごみを減らしたい。そのためには一人ひとりがごみを減らさないといけないが、今の状況では個人の努力で減らすのは難しく、ただ単に目標値を設定するだけではなく、どんな方法を取って減らしていけるのか考える必要がある。

ごみ減量推進課

基本的には、先ほど有料化の諮問があったが、それ以前からごみ減量推進部会で目標値改定、計画の改定に向けて御審議いただいているので、そのなかでそういった問題を審議していただくことになる。また、プラスチックの問題については、ここ最近の報道

で廃プラスチック全体をリサイクルしていかなければならないという国の方針が示されているため、市としてもそういったことを含めて議論が出来ればと考えている。また、燃えるごみが二酸化炭素排出量に関連するというご意見もいただいたので、そこにどういった形でスポットを当てていくかということを含めて推進部会の審議の中で議論を進めたいと考えている。

藤本副会長

今までの質問につながるところで、資料3のp2、廃棄物処理による二酸化炭素排出量について、2017年度の排出量が基準年度比で31.8%増と、わずか数年でこれだけ増えている。先ほど事務局から、これは一般廃棄物に含まれるプラスチックの増加によるものだと説明があったが、それにしても多いのではないかと。4年間でこれだけの増加となると、プラスチックの増加のほかにも要因があるのではないかと。

環境政策課

廃棄物処理におけるプラスチックの量については、毎年一般廃棄物の組成に関する調査を行っている。その結果、ごみの中に含まれる廃プラスチック量が、基準年度（2013年度）と比べて33%増という結果が出ていて、それを基にして計算している。したがって、単純にプラスチック廃棄物量の増加の影響と考えている。

田中会長

続いて、参考資料1から3について、意見があればお願いします。

中村委員

参考資料1について、2 その他(1)に2050年度までの市内総電力使用量目標が定められている。2050年にはかなり人口が減っているものと考えられるが、この目標値は人口減による現象なのか、それ以上の削減をする目標なのか。

環境政策課

この数字は、今年4月に改定された浜松市エネルギービジョンを引用している。詳細については市エネルギー政策課に確認が必要だが、電力需要量を今後の家庭や産業等の電力消費量の見込みから計算したものである。

田中会長

次回以降の会議で、資料等あればご準備いただきたい。  
後日気づかれた点などあれば、メール等で事務局へ連絡することとする。  
本日の会議全体を通して、何かご意見があればお願いします。

野中委員

感想になりますが、再生可能エネルギーの中で太陽光発電があちらこちらで広がっている。自分の目に入るようなところでも、山を切り開いて太陽光発電が進められている。一方で、森林が吸収する二酸化炭素や、災害が起きたときの問題がある。太陽光発電を増やすためにただ立地条件が良いからと山を切り開いてよいものかと、大変危惧される場所である。

田中会長

それでは、すべての議事が終了したので、進行を事務局へお返しする。

## 5. 閉会

事務局（藤田次長）

事務局から、今後の予定について連絡させていただく。

事務局

本日の議事について、追加のご意見・ご質問等ある場合は、7月31日（金）までに事務局までご連絡をお願いします。

基本計画の説明でも申しあげたとおり、施策について何かあれば、特に期限を設けないのでその都度ご相談いただきたい。

本日の会議の記録は、後日事務局で作成し皆様にお送りするので、確認をお願いします。

## 5. 閉会

事務局（藤田次長）　　本日は、長時間にわたりご審議いただくとともに、貴重なご意見を賜わりお礼申し上げます。以上で本日の環境審議会を終了とする。